

週刊ホテルレストラン 2000/10-20

# HOTEL RESTAURANTS

<http://www.ohtapub.co.jp/>

¥1600

平成12年10月20日発行 (毎週金曜日発行但し第5週は除く) 第35巻39号 (創刊号113号) 昭和42年4月21日第3種郵便物認可



“食”ビジネス革命special 外食トップ対論②

**櫻田 厚氏 × 渡邊美樹氏**

株モスフードサービス 代表取締役社長

ワタミフードサービス株 代表取締役社長

特集 救世主になるか?

**デビットカードの可能性を探る**

○ホテルトップインタビュー

ウェスティン ナゴヤ キャッスル

取締役総支配人 山本勝彦氏

drastic change

# 京王プラザホテルで「ユ

# ニバーサルルーム」視察や車いす試乗体験

# 「バリアフリーサービスセミナー」開催



講演をする京王プラザホテルの中村孝夫フロント支配人



ドアロックやファクス受信、アラームなどを光の点滅や振動装置の振動で知らせる時計型装置と、ペンタッチでフロントなどにつながる電話筆談装置



館内への出入り口には車いすでの移動を可能にするスロープも設置



車いすでの階段の昇降には、このように抱え込む補助が理想的



ペン型のリーダーでなぞると音が再生される、しやべるルームサービスメニュー「スキヤントーク」



コムスン・トラベル  
東京都港区六本木4-8-6 ☎03-5772-1900  
京王プラザホテル  
東京都新宿区西新宿2-2-1 ☎03-3344-0111



赤外線発信機にレシーバーを向けると、音声で目的地までガイドしてくれる「トーキングサイン」

外部の様子や来客者を車いすのまま確認できる「液晶ドアスコープ」

その後、中村フロント支配人が「京王プラザホテル・バリアフリーへの取り組み」と題して講義。その経緯とともに、出入り口のスロープなどの館内設備、室内の入浴補助用のいすや手すりなどももちろんのこと、メーカーとホテルが共同で開発した各種装置についても具体的に説明した。

96年に導入された聴覚障害者のための客室伝達装置は、ドアのロックやファクスの受信を光の点滅や携帯装置の振動で知らせられるもの。97年にはペンタッチでフロントにつながる電話筆談装置を、99年には視覚障害者向けのしゃべるルームサービスメニュー「スキヤントーク」を導入した。

また、来客者を車いすのまま確認できる「液晶ドアスコープ」も設置している。最新システムは「トーキングサイン」。赤外線発信機を利用した音声情報案内システムだ。

講演後は、車いすに乗る人とサポートする人が2人1組になって、ユニバーサルルームの視察と館内見学を行ない、実際にこれらの装置を体験。質疑応答を経て、セミナー会場を後にした。

ホテルマンを対象にしたバリアフリーセミナーを開催するのは同社でも初の試みだったため、参加者にとっては更なる意識改革につながる格好の機会になったと言えるだろう。

(取材文 上野まゆこ)

東京・新宿の京王プラザホテルを会場に9月25日、コムスン・トラベル主催の「バリアフリーサービスセミナー」が開催された。

コムスン・トラベルは、今年4月、在宅介護のリーディングカンパニーであるコムスンが新たにスタートさせた要介護者向けバリアフリー旅行の専門会社。ここ最近、とみに関心の高まるバリアフリーに積極的に取り組み、「旅のユニバーサルデザイン」を目指してサービスを提供している。

ユニバーサルデザインとは、障害のある人ももちろんのこと、高齢者から若年層まですべての人にとって、「使いやすい」製品や生活環境をデザインするという理念のもと、90年に米国の建築家ロナルド・メイスイ氏によって提唱された概念。北米やEU各国では新たな用語として定着し始めている。

会場となった京王プラザホテルは、88年にいち早くバリアフリーの構想を取り入れ、充実したサービス提供を推し進めてきた。各種設備を仮設とし、ユニバーサルデザインの機能を再現した「ユニバーサルルーム」(通常は一般客室として利用可)も15室用意しており、高い評価を得ている。今回のセミナーでは、同ホテルの中村孝夫フロント支配人が講演を行った。

セミナーには、ホテル関係者ら19人が参加。前半は、「バリアフリーサービス基礎知識編」と題され、YMCA国際ホテル・トラベル専門学校の前川俊信講師、障害者地域作業所「さほうハウス」の岡村道夫所長、障害者スイミング・ゴールドメダリストの斎藤勝利氏による身近な視点からのレクチャーが行われた。ホテルマンにとってのバリアフリーに対する